

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成30年5月10日(2018.5.10)

【公開番号】特開2017-42611(P2017-42611A)

【公開日】平成29年3月2日(2017.3.2)

【年通号数】公開・登録公報2017-009

【出願番号】特願2016-162338(P2016-162338)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月19日(2018.3.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を行う遊技機であって、
 可変表示を実行可能な可変表示手段と、
 可変表示に対応する特定表示を行う特定表示手段とを備え、
 前記可変表示手段は、可変表示が開始されてから表示結果が導出表示されるまでに擬似
 可変表示を所定回数実行する所定可変表示を実行可能であり、
 前記特定表示は、遊技者にとって有利な有利状態に制御される期待度に応じて変化可能
 であり、当該変化のタイミングが所定可変表示の種類に応じて異なる
 ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

(1) 上記目的を達成するため、本願の請求項に係る遊技機は、遊技を行う遊技機(例えばパチンコ遊技機 1 等)であって、可変表示を実行可能な可変表示手段(例えば 3 つといった複数の可変表示部となる飾り図柄表示エリアにて、各々が識別可能な複数種類の識別情報である飾り図柄を可変表示する画像表示装置 5 やメイン画像装置等)と、可変表示に対応する特定表示を行う特定表示手段(例えば変動中表示エリア 5 I にて、現在実行されている可変表示に対応した画像を表示する画像表示装置 5 やサブ画像装置等)とを備え、前記可変表示手段は、可変表示が開始されてから表示結果が導出表示されるまでに擬似可変表示を所定回数実行する所定可変表示を実行可能であり(例えば演出制御用 CPU 1 2 0 が、特図ゲームの第 1 開始条件と第 2 開始条件のいずれか一方が 1 回成立したことに
 対応して、飾り図柄の可変表示が開始されてから可変表示結果となる確定飾り図柄が導出表示されるまでに、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R における全部にて飾り図柄を一旦仮停止表示させた後、全部の飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R にて飾り図柄を再び変動させる演出表示を、所定回行う「擬似連」の可変表示演出を実行可能であること等)、前記特定表示は、遊技者にとって有利な有利状態に制御される

期待度に応じて変化可能であり（例えば図 28 に示す変動中表示予告設定処理におけるステップ S 161 の処理にて、変動中表示エリア 5 I での表示態様を、通常時における表示態様とは異なる表示態様に変化させることにより、現在実行されている可変表示の可変表示結果が「大当り」となる可能性等を予告する変動中表示予告の有無が、大当り判定の有無に応じて決定された擬似連演出パターンに応じた決定割合で決定されることにより、変動中表示予告が実行されたときには、実行されないときよりも可変表示結果が「大当り」となる可能性が高められること等）、当該変化のタイミングが所定可変表示の種類に応じて異なる（例えば図 28 に示す変動中表示予告設定処理におけるステップ S 163 の処理にて、変動中表示エリア 5 I での表示態様を通常時における表示態様とは異なる表示態様に変化させる変動中表示予告タイミングが、大当り判定の有無に応じて決定された擬似連演出パターンに応じた決定割合で決定されること等）。